

お わ り に

4年前、私たちは「発達と障害に応じた指導」の研究主題のもとに6つの研究グループを設けて、新しい体制で研究をスタートしました。各研究グループのテーマは、私たちが日々の教育活動の中で持っている課題や問題点などを出し合い、それらをもとに話し合ってきたもので、教師一人一人の関心のあること、やってみたいことが集約されたものでした。

各研究グループのテーマが毎日の学習指導とかかわりの深い身近なことや、グループのメンバーが少人数であることなど、研究が日常的に行われやすい、いわば小まわりのきく研究体制だったと思います。また、テーマの特性に応じて各グループの研究の輪が家庭へも広がっていくなど、新しい方向を見つけることもできました。この間、研究テーマの変更もいくつかありましたが、各グループ共多くの研究成果を積み上げてきました。そしてこの3年間のことがいろいろ話し合われて新しい研究年度を迎えました。

今年度の研究主題は、昨年度までのものと同じ「発達と障害に応じた指導」です。又、それぞれがテーマをもった研究グループを設けて進めていこうという体制も、各グループの研究テーマも昨年度のものとはほとんど変わってはいませんが、今年はこの3年間の実践の成果と反省に立った新たなスタートの年になりました。

更に今年度はサブテーマとして「子どもの気づきを大切に」を加えました。このことによって各グループの取り組みが一段と深められました。子どもたちの、学習をはじめいろいろな場での動作や表情、言葉や目の輝きなどにあらわれる心の動きを見すごさないようにしていこうと話し合われました。そして指導者の側の子どもを見る目の大切さが確かめられ指導者同士が互いに切磋琢磨して、そうした確かな目を養う努力を重ねてきました。このサブテーマは「子どもの“気づき”に気づく指導者」にならなければいけないという私たちの気持ちを込めたものだと言えます。

今回で4年目になる「発達と障害に応じた指導」の研究主題は、一人一人の子どもを大切にしていこうという精神で設けられたものです。私たちは将来ともこの精神に立って日々の研究活動と教育活動を続けていかなければならないと考えております。

先生方のご指導をよろしく申し上げます。

(加藤定雄)